

今日からできるSDGs

SDGsとは2030年までに世界全体で目指す17の目標です

SDGsはSustainable Development Goalsの略で、持続可能な開発目標という意味です。2015年9月、国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に、2030年までに達成すべき国際目標として示されました。17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

SDGsがなぜ必要なのか？

地球上には貧困、紛争、気候変動、感染症など、多くの問題があります。例えば、地球温暖化が進むと、干ばつや洪水が増え、私達の生活や食糧の生産にも影響がおよびます。このままでは、私達だけでなく未来の人々が安定して暮らし続けることができなくなります。一つしかないこの地球で暮らし続けるための指針としてSDGsがあります。

SDGsは、平等に良い環境の中で暮らしていける世界をつくるための共通目標です。国や企業だけが取り組むのではなく、私達自身が自分ごととして取り組むことが大切です。ここでは、日常生活の中でできるSDGsの取り組みを紹介します。



健康意識を高める

健康診断、健（検）診を定期的に受け、運動の習慣化、食生活の改善など健康に気をつけましょう。また地域のサロンなどで人と交流することも健康につながります。



使わない衣服などを寄付する

衣服、学用品やその他の使わないものを寄付しましょう。ごみを減らすだけでなく、平等に学ぶ機会の提供などにもつながります。



お互いの違いを認め尊重する

人種、性別、考え方など、人は千差万別です。お互いを認め合い協力することで不平等をなくしていきましょう。さまざまな人と関わる機会を持ち、理解を深めましょう。



フードロスを削減する

一人あたり、毎日お茶碗1杯分の食品ロスが発生しています。賞味期限が近いものから必要な分だけ買い、食べきましょう。またフードバンクも活用しましょう。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



一人ひとりの小さな行動で未来が大きく変わります

皆さんが日常で、相手のことを思いやって行っていることやこれまでから大切に続けられていることもSDGsにつながっています。また、「良いな」と思う取り組みはぜひ家族や友だちと共有しましょう。思いがつながれば、その取り組みが広がっていきます。「自分一人くらい」と思わず、「まずは自分から」取り組み始め、家族や友だち、地域、そして地球へと広がっていきましょう。



公共交通を利用する

公共交通
通を利用
すると、

1人あたりの温室効果ガスの排出量が減少します。また、徒歩や自転車での移動は健康づくりにもつながります。



家事や育児を分担する

パートナーが仕事や家事、育児を協力し合い同じように分担するのが理想です。ジェンダー平等を意識し、お互いが負担にならない程度に家事を分担できるよう、話し合ってみましょう。



節電や節水をする

使っていない家電製品の電源を切る、水を出しっぱなしにしないなど、家の中でできるSDGsの取り組みです。



地元で買い物をする・地場産品を食べる

地産地消は輸送にかかるエネルギーの削減や雇用環境の改善などにもつながります。また、地域活性化へのつながりも期待できます。



災害に備える

非常食などを備蓄したり避難経路を確認しましょう。また、近所の方と交流を深め、お互いが助け合えるように備えることで多くの人の命を救うことができます。



マイバッグやマイボトルを使う

プラスチックごみの削減につながります。また、買い物の際には、簡易包装の商品や詰め替え可能な商品を選びましょう。

